

1月の 園便り



24年 新潟青陵幼稚園 加藤由美子

あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。
 年を重ねるごとにお正月らしさを感じにくくなるように思えますが、子どもたちにとっては特別なこととして心に残りますね。きっと皆様も、ご自身の子どもの頃のお正月の風景や出来事が記憶に残っていることと思います。子どもたちの記憶をどのようにつけてあげるかということは、大人の仕事かしらと思ったりしています。

お正月早々に買い物に出たときに、ご家族連れの方も多く見られましたが・・・その中で、洋服を見ているお母さんに子どもたちが「早く帰ろう〜」「もう〜いやだ〜」といているのを耳にして、昔、私も同じように子どもに我慢をさせて自分の買い物をしていたな〜と思い出しながら、こんなとき子どもたちの気持ちに気づいてはいても、深く考えてあげるということをしていなかった、つまり自分を優先していたのですね。そんなことを考えながら「もう帰ろう〜」といている子どもたちに、私は心の中で(分かるわかる、そうだよね・・・)と同情なぞをしておりました。

「ラモーナとおかあさん」(ベバリイ・クリアリー作)という児童書(小学校中学年から)が子どもの心をよくあらわしていると河合隼雄さんの本に出ていたのので、読んでみました。ラモーナは、知りたがり屋でやりたがり屋でとっても生き生きしている女の子。お母さんと一緒に縫い物がしたかったのに、その思いはお母さんになかなか伝わらなかったことや、失望なんて毎日しているから、お母さんに言われなくても分かっていること、お母さんがラモーナの小さい頃のことを無遠慮に他の人に言ってしまったこと、いたづらをしてしまった原因を分かってもえなかったこと、お父さんとお母さんの言い合いに凍りつくような思いでいたこと――などラモーナの言葉にならない思いが詰まっています。物語の最後には、そんな思いが爆発してしまって家出を決意したラモーナ、でもお母さんはラモーナの家出の荷造りを手伝いながら、ラモーナが一番言ってほしかった言葉を言ってくれて・・・この本を読んで、ラモーナのお母さんの素敵な姿に、子育てしていた頃にこんなお母さんでいてあげられたらよかったのに・・・と反省させられました。一つひとつの事柄に小さな心を動かして、日々精一杯生きている子どもたちなのですね、子どもの思いを、大人が十分に分かってあげたなら、解決する問題が多いのではないかと思います。自分の気持ちを表すことがまだ十分ではない子どもたちですから、分かってあげることとはとても難しいことなのですが、私たち大人が、自分の子どもの頃の事を思い出したり、また、想像力を使って子どもの思いを推し量って、“子どもが思いを表現する力”を支えていかなければならないと思いました。

24年1月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	日	/	/		
2	月	/	/		
3	火	/	/		
4	水	/	/		
5	木	/	/		
6	金	/	/		
7	土	/	/		
8	日	/	/		
9	月	/	/		
10	火	×	11:30	始業式です。	
11	水	◎	12:00	お餅つきの会を行います。	降園時間がいつもと違って12時となります。
12	木	○	2:00	給食が始まります。	
13	金	○	2:00		
14	土	/	/	第2土曜日	
15	日	/	/		
16	月	○	2:00		
17	火	○	2:00		
18	水	×	11:30	誕生会です。	1月生まれさんの保護者の方と一緒に祝いましょう。
19	木	○	2:00		
20	金	○	2:00		
21	土	/	/	大学入試のため、自由登園日はお休みです。	
22	日	/	/		
23	月	○	2:00		
24	火	○	2:00	個人懇談が始まります。	
25	水	○	2:00	個人懇談	
26	木	○	2:00	//	
27	金	○	2:00	//	
28	土	/	/	第4土曜日	
29	日	/	/		
30	月	○	2:00		
31	火	○	2:00		